

平成 27 年度フォローアップ結果への対応状況

機関名	豊橋技術科学大学				
統括責任者	役職	学長	実施責任者	部署名・役職	副学長（研究力強化担当）
	氏名	大西 隆		氏名	原 邦彦

平成 27 年度フォローアップ結果

評点区分：順調に進んでいる

全体を通じた所見

- 組織の機動力を活かし、大学全体にわたる研究推進方策、改革がきめ細かく策定されており、順調に進んでいることが確認された。
- エレクトロニクス先端融合研究所を異分野融合イノベーション研究の中核と位置付け、国際化にも注力されている。これらの活動を支える「研究推進アドミニストレーションセンター(RAC)」は4室(研究戦略、研究・産連推進、知財管理、技術科学支援)が機能的に連携できるように構成されており、今後の異分野融合イノベーション研究の発展を期待したい。

特に優れた点

- URA のキャリアパスの明確化、学内特別人事システムによる雇用の位置づけの明確化が図られ、教職員にとって魅力的な制度が整備されている。
- シニア URA として、国際企業の取締役・研究所経験者を採用するなど、多様な経験を有する URA を確保し、研究戦略、産業連携、知財、支援など多岐にわたる活動が行える体制が構築されている。

期待する点

- 女性教員の登用方策として採用方法のみならず、学内の受入体制整備も考慮することが期待される。
- URA を増員して、更に大学の活性化が図られることを期待する。

平成 27 年度フォローアップ結果コメントに対する事業の課題と展望

【1】異分野融合イノベーション研究について

1. 国際化の推進

米国 CALTECH との共同研究の実質化として、国際公募した研究者を本学特任助教として採用し、CALTECH へ長期派遣している。また、「平成 28 年度頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム」に採択されたことにより、米国 MIT やドイツエアランゲン・ニュルンベルク大学等との国際共同研究を推進していく。これらにより共同研究の加速度的進展と国際共著論文の増加等が期待できる。

2. 技術科学イノベーション研究機構の設置とマッチングファンドの導入による産学協働研究の推進

平成 28 年 4 月 1 日、国内外の研究機関や企業等と協働して社会実装・社会提言に繋がる戦略的研究を推進することを目的とする「技術科学イノベーション研究機構」を設置した。

同機構のプロジェクトとして、学内公募テーマから学内審査を経て選定された 16 テーマについて、本事業補助金および機能強化経費を原資としてマッチングファンドを実現し、研究が起動している。成果の社会実装をめざした異分野融合研究の加速度的進展が期待できる。

3. 研究推進アドミニストレーションセンター（RAC）における研究推進体制の整備

本学全体の研究力強化を推進するための中核組織である「研究推進アドミニストレーションセンター（RAC）」は、技術科学イノベーション研究機構の連携・協力組織として研究活動を支援するとともに、URA やコーディネーターによって国際共同研究、産学協働研究の推進のため積極的に研究支援活動を展開しており、その活動は共同研究等の外部資金の更なる増加に繋がることが期待できる。

【2】女性教員の登用方策について

1. 女性限定枠の教員公募を実施し、平成 27 年度に女性教員 2 名、平成 28 年度は 3 名採用した。今後も引き続き実施する。
2. 女性教員継続勤務支援検討WGを立ち上げ、女性教員支援アクションプランを策定した。
3. 「育児と介護のための支援案内パンフレット」の作成・周知を行うなど、女性教員採用に向けた環境整備を推進している。
4. 名古屋大学、名古屋市立大学と連携し、「理系女性研究者の活躍シンポジウム：文科省/JST 女性研究者研究活動支援事業」活動を積極的に推進したことで、学内の意識が高まってきている。
5. 附属図書館改修計画に女性専用の休憩室、授乳室等の女性研究者等支援エリアを新設し、女子学生・女性研究者等が学修しやすく、働きやすい環境創出のため、平成 29 年 3 月を目途に環境整備中である。
また、これまで女子トイレを含む学内トイレの改修を実施し学内外から高い評価を得ている。第三期中期計画期間中における改修年次計画を作成しており、計画的に学内環境整備を進める予定である。

【3】URAの増員について

平成 27 年度にコーディネーターから URA へ職種変更して 1 名実質増員し 8 名体制をとった。今後、優秀なコーディネーターを順次 URA に登用し、大型共同研究企画やそれに伴う知財申請、各種契約締結等のアドミニストレーション機能の更なる高度化と活性化を図る。(URA 現員 8 名)

また、URA とは別に、産学連携を主とした業務を行う科学技術コーディネーターを 6 人配置しており、URA と合わせて 14 人となっている。特に、研究支援を希望する教員（学内教員の約 50%強に相当）については、RAC で支援できる体制を整え、機能強化を図っている。

研究大学強化促進事業推進委員会コメント

- 貴学の特色である社会実装を目指した異分野融合研究に関する取組に拍車がかかっていること、女性研究者への配慮が、ハード・ソフト両面で強い意志を持って進められていることが確認できた。